

ikeco

2026
vol.51

“住む人が主役の家づくり”に、もっとファンを！

北海道の家づくりはいま、 どこへ向かうのか

性能を追い、地域に寄り添う。

住宅性能セミナーから見た、武部建設の家づくりの哲学。

特集

自然素材と向き合いながら、
住まいのこれからを考え続けたikecoのあゆみ。

北海道は長らく、日本の高断熱住宅をリードしてきた地域だ。しかし近年、その北海道でも「夏の暑さ」が新たな課題として浮上している。かつては「エアコン不要」とも言われた高断熱住宅でも、猛暑の年には設置依頼が殺到し、在庫が底をつく事態にまで発展した。この変化に早くから向き合ってきたのが、北海道・岩見沢市を拠点とする武部建設だ。2026年3月、同社は築88年の木造校舎を転用した当別蒸溜所を舞台に、温熱設計と湿気制御をテーマにした2日間の技術セミナーを主催した。WUFI（ウーフィー）シミュレーションによる仕様検証と木繊維断熱材シュタイコの採用を巡る議論が行われ、道内の工務店・設計者に大きな反響を呼んだ。今回は、武部建設・武部豊孝さんに話を伺った。テーマはセミナーの内容だけではない。技術の先端を走りながら地域の「住」に寄り添う、武部建設の家づくりの考え方と今後の方向性を聞く。

築88年の木造校舎を蒸溜所へ ——「残しながら使い切る」建築

今回、セミナーの舞台となった当別蒸溜所は、築88年の木造校舎が前身だ。2016年の閉校後、老朽化が進んでいた建物を「壊すか残すか」ではなく「どう残して使い切るか」という問いのもとに再生した。設計の肝は校舎と体育館の分離だ。体育館を蒸溜所として用途変更しつつ、校舎は既存不適

格のまま活かす——現実的な線引きでコストと理想のバランスを取った。大空間はそのままに、必要な部屋は内部に「箱」として構築する入れ子構造が採用され、製造空間・事務室・熟成庫それぞれに異なる断熱仕様が与えられている。図面が存在しない建物を実測しながら施工した

武部建設にとって、このプロジェクトは現場力が試される仕事だった。断熱材は施工途中でシュタイコ ゼルへ変更。事前にWUFIで結露リスクを確認した上での判断であり、「数値化して検証できることが、我々の背中を押してくれる」という武部さんの言葉がこの建物の完成を支えた姿勢を物語っていた。



2016年3月に閉校した当別町立弁華別小学校。木造校舎を活用し、クラフトウイスキー蒸溜所として再生された。



現地見学では、施主による建物・事業の紹介と、設計者による設計解説が行われた。

製造ホール内部には平屋の空間を新設し、既存のトラスを生かしながら、製造ホールとして生まれ変わった。



熟成庫は、既存床の解体と一部コンクリート打設のみの、最小限の改修。
樽置き場はあえて砂利仕上げとし、既存校舎の雰囲気を残している。

2026年3月25～26日、武部建設主催の2日間セミナーが開催された。

テーマは「当別蒸溜所への想いと、持続可能な温熱設計」——実建築を舞台に、現地見学とWUFI解析の両面から検証する実践的な内容となった。

日程	プログラム	内容
3/25 (水) 現地見学 & セミナー	当別蒸溜所 現地見学	施主による建物・事業の紹介／向井正伸建築設計事務所による設計解説（断熱・防湿の考え方）／武部建設による施工解説（屋根・壁構成、シュタイコ ゼル施工部位の確認）
	WUFIで読み解く 温熱設計	辻充孝教授によるWUFI解析実演（温熱・湿気挙動、夏冬の対策）／創伸・北村代表によるシュタイコ ゼル内製化戦略の紹介
3/26 (木) 技術セミナー	WUFIシミュレーション 解説&ディスカッション	辻教授による将来気候を見据えた断熱・防湿設計の解説（90分）／武部建設+辻教授によるディスカッション（北海道住宅の現状・課題、仕様選択の考え方）



蒸溜所として活用される、改修前のメイン体育館。各所に経年劣化が見られるなか、可能な限り修繕を行いながら再生が進められた。

夏の変化が問いを生んだ —— シュタイコとWUFIへの道



技術セミナーでは辻充孝教授によるWUFIの解析実演、創伸・北村代表によるシュタイコゼルの内製化戦略、武部建設+辻教授によるディスカッションなどが行われた。

セミナーの感想を聞くと、「一言で言えば、濃かったな」と武部豊孝さんは振り返った。きっかけは2022～23年の北海道の猛暑だ。エアコンの取り付け依頼が殺到し、協力業者が「もう今年は無理です」というほどの状況になっていた。」——その実感が、建築的なアプローチへの問いに火をつけた。

シュタイコへの関心は以前からあったが、コストが壁だった。一方で、材木業をルーツに持ち、宮大工に通じる技術の継承にも力を入れてきた同社にとって、木繊維であるシュタイコは素材としての親和性の高さも感じていたという。断熱や気密といった性能だけでなく、住まい手が実際に感じる「体感」の質も重視したいという思いが、その背景にあった。当別蒸溜所での採用を経て、次に懸念されたのが結露によるカビのリスクだ。しかし、この

課題については、イケダコーポレーションからWUFIによって解析できるという情報がもたらされ、岐阜県立森林文化アカデミーの辻教授にもお力を借り、採用に踏み切れたという。そのうえで、今回のセミナーで自社仕様を解析した結果、大きな問題は見つからなかった。性能面だけでなく、エネルギー消費の観点からも、より良い方向性が見えてきた。

「『ここが欠陥だったから直せる』という分かりやすい答えもなくして(笑)。ただグレードアップする要素は絶対にある。付加断熱か内部断熱か、まだ検証が必要です。」

厚真町の知人宅で、木繊維断熱材を全面採用した建物を夏に訪れた際、エアコンなしで涼しかった体験が今も印象に残っているという。「あの体感を、うちのお客さんにも届けたい」——それが今の目標だ。

辻 充孝 氏 岐阜県立森林文化アカデミー教授

大阪芸術大学建築学科を卒業後、Ms建築設計事務所に入所。5年間の実務経験を経て2001年から現職。建築計画、温熱環境の研究、講座を受けもつと同時に、木造住宅や木造建築の設計に携わる。2022年第1回SDGs建築賞（一財）住宅・建築SDGs推進センター理事長賞受賞、他多数受賞。





写真提供: 武部建設株式会社



地域に届ける仕様へ —— オープンな姿勢と次の挑戦

武部さんが一貫して強調するのが「住は人の身近なところにあるべき」という信念だ。高い技術力で性能を追求しながら、地域の人にも手が届きやすい仕様を用意する——その両立のために、何パターンかの仕様を用意して「走りながら決めていく」スタンスを取る。

また、今回のセミナーでは、自社の仕様や検証データを道内の他社に惜しみなく開示した姿勢も印象的だった。「新住協で学んできた場がオープンだったから、自分たちもオープンにする。高め合うことで相乗効果が生まれる」——それが武部建設の基本姿勢だ。

最後に、これから挑戦したいことを聞くと、意外な答えが返ってきた。

「基礎のコンクリートをいかに減らせるか、ですね。これまで耐震性を重視する中で『固める建築』が主流となってきたが、昔の伝統建築は制震・免震に近い『柔らかい構造』だった。しっかり計算して取り入れることで、CO2削減にもなるし、今までの建物により親和性の高い構造になる可能性がある」。

「常に走るのは止めるわけにいかない」——その言葉が、この会社の本質を言い表していた。



建物はもともと「校舎棟」「体育館棟」が一体だったが、法規対応とコストの問題から分離。蒸溜所として使うのは体育館側で、校舎側は既存のまま残す判断がされている。



写真提供: 武部建設株式会社

武部建設株式会社

1946年創業。造材業・製材業を源流に持ち、北海道・岩見沢市と三笠市を拠点に木造住宅を手がける。道産材・国産材にこだわり、社有林から伐採・加工・施工まで一貫して自社の大工が担う。1991年に新住協（新木造住宅技術研究協議会）へ入会し、断熱・気密分野の技術向上をリードしてきた。大工の育成にも長年力を入れており、手刻み・墨付けができる大工を3年間の見習い期間で育成。新築・民家再生・リノベーションのほか、ワイナリーや蒸溜所など非住宅の木造施設も手がける。

ikeco HISTORY

ikecoのあゆみ

おかげさまで50号突破！



50冊の誌面に込めてきた 住まいづくりへの想い

2008年に創刊したikecoは、今回で51号を迎えました。

これまで誌面では、自然素材や住まいづくりを取り巻くさまざまなテーマを取り上げてきました。

塗料や左官材、断熱、木材保護といった素材の話から、設計者へのインタビュー、施工事例、海外の考え方、暮らし方の提案まで。

その時代ごとの課題や価値観と向き合いながら、一冊一冊を積み重ねてきました。このページでは、これまでの誌面を振り返りながら、『ikeco』が伝えてきたテーマや歩みをご紹介します。

ikecoのバックナンバーは
HPから閲覧できます。
ぜひご覧ください。



2002-
天然スライス漆喰 スイスウォールの
取り扱いを開始



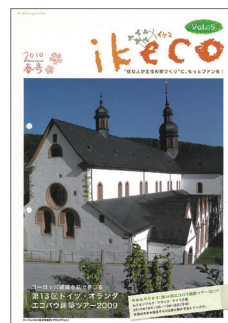
vol.01 創刊号

30代女性の心をつかむ モデルハウス

記念すべき創刊号では、天然スライス漆喰「カルクウォール」を採用したモデルハウスを特集。自然素材がもたらす心地よさや、これからの住まいづくりへの想いを誌面に込めました。

2008

2010



vol.05

エコパウ建築ツアーで感じる、 ヨーロッパの住まいづくり

第13回「ドイツ・オランダ エコパウ建築ツアー2009」を紹介。人と自然が共生する暮らしをテーマに、ヨーロッパの先進的な建築や環境への負荷を抑えた住まいづくりの考え方を伝えました。



2018-
木繊維断熱材
シュタイコ
の取り扱い開始



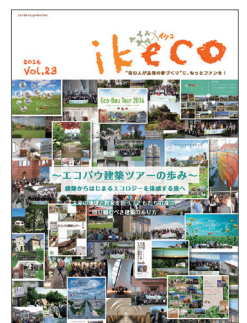
vol.16

塗り壁のある風景コンテスト スライス漆喰アートフェスタ

第4回「塗り壁のある風景コンテスト2013」を紹介。スライス漆喰の作品展示やセミナー、DIYスクールを通して、自然素材のある暮らしと塗り壁の魅力を伝えました。

2013

2016



vol.23

エコパウ建築ツアーの歩み

20年目を迎えたエコパウ建築ツアーを特集。ヨーロッパの建築を通して、住む人の健康と環境に配慮した家づくりの考え方を紹介しました。

50号の歩みの中で出会った、
これからも自然素材とともに、



2022-
レイノス天然塗料の
取り扱い開始



vol.32

熊本で初の パッシブハウスへの挑戦

省エネ建築診断士のお施主様と、空設計工房の江藤眞理子氏へのインタビューを特集。高い省エネ性能と快適な暮らしを両立する、パッシブハウスの考え方についてお話を伺いました。

2019

2017



vol.27

Realな省エネ性能、 Realな暮らし

高性能住宅への取り組みを続ける西方設計を特集。省エネ性能とデザイン性を両立した住まいづくりを通して、これからの住宅のあり方を紹介しました。



vol.38

もろくす建築社 視察ツアー

もろくす建築社 佐藤欣裕氏が手がける住まいを巡る視察ツアーを特集。自然の力を活かした温熱環境づくりや、人の感覚に寄り添う快適な住まいの考え方を取り上げました。

2022

2021



vol.34

木繊維断熱材シュタイコで 実現する快適な住まい

長野智雄設計工房が手がける、木とコンクリートを組み合わせたハイブリッド建築を特集。伝統的な木造建築の良さや自然素材の特性を活かし、地域の風土に寄り添う住まいづくりを取り上げました。



vol.47

住まい手が語る 100点満点のエコハウス

空設計工房 江藤眞理子氏が手がけた住まいを特集。高い省エネ性能と自然素材を取り入れ、住まい手の理想と快適な暮らしを追求した家づくりに迫りました。

2024

2023



vol.40

外と内がつながる 理想の住まいづくり

地域風土に合わせた住宅の温熱環境を追求する、株式会社創伸 北村裕寿氏の取り組みを特集。日本の伝統構法と新しい素材を融合し、体感を通じて考える未来の住まいづくりに迫りました。



vol.50

堀部安嗣 自邸から読み解く 設計プロセス

記念すべき50号では、建築家堀部安嗣氏の自邸を通して、自然と性能を両立する住宅設計を特集。光や風、素材の質感を大切にしたい住まいづくりと、設計に込められた考え方を伺いました。

2025



vol.42

パッシブハウス、その先へ

建築家 森みわ氏が設計した軽井沢の自邸を通して、これからのエコハウスのあり方を特集。日本の気候風土に合った省エネ住宅への取り組みと、快適な住まいづくりへの想いを伺いました。



vol.43

木のマンションリノベーション

マスタープラン/小谷和也設計室 小谷和也氏のマンションリノベーションを特集。木繊維断熱材シュタイコの採用を通して、快適な住み心地を追求する住まいづくりについて伺いました。

数多くの住まいと考え方。

より良い住まいづくりを考えていきます。



information

お知らせ

“木を使う”から、“木で場をつくる”へ セミナー開催 — 久保久志氏に学ぶ、地域と人を育てる建築設計 —

学校や交流施設、公共建築など、地域に開かれた建築において、木は人が集い、学び、語り合う「場」をつくる大切な素材です。本セミナーでは、建築家・久保久志氏を講師に迎え、木造・木質建築の実例を交えながら、地域に根ざした建築設計や非住宅木造の可能性についてお話いただきます。



講師
久保 久志氏

日時 2026年8月26日 水
14:00~16:00

会場 名古屋公会堂
(岡谷鋼機名古屋公会堂)
第6集会室 (3階)

お申し込みはこちらから —

参加費
無料



春日井市 名工建設総合技術研修センター



新城市 作手小学校



長久手 リリモテラス公益施設
(2021年ウッドデザイン賞)

ご報告

シュタイコ 夏に効く断熱材を体感する1日 — 秩父から始まる木繊維断熱材の市場づくり —



6月30日(火)、ウッドイーコイケ様本社にてシュタイコ体感ツアーを開催しました。木繊維断熱材の特徴や性能を学び、「シュタイコ ゼル」の吹き込み体験、施工現場の見学、高橋建築 高橋社長による採用事例の紹介、工場見学を通して、製造から施工までを一日で体感いただきました。参加者からは、「木造住宅を提案する大切さを感じた」「木の断熱について理解が深まった」といった感想が寄せられ、木繊維断熱材への理解を深める機会となりました。



お知らせ

オンラインウェビナー開催予定!

欧州の最新事例をオンラインで学ぶ

今秋、欧州の講師を招いたオンラインウェビナーを開催予定です。木造・木質建築や自然素材に関する最新の取り組みや実践事例をご紹介します。テーマや開催日時などの詳細は、決まり次第ホームページやメールマガジンでご案内します。

お知らせ

レイノス天然塗料は年内、現在の価格でご提供します。

原材料価格の上昇により、建材や塗料の価格改定が続いています。レイノス天然塗料は2026年内の価格改定を予定していません。ナフサを主原料とする石油系塗料とは異なる原料を使用しているため、価格変動の影響を受けにくく、これからも安心してご採用いただける製品をお届けします。



ひとと環境にやさしい住まいづくり
株式会社イケダコーポレーション

ご注文・カタログのダウンロードはWEBから



SNSで施工事例・イベント情報など
更新しています

Instagram
@ikedacorporation

Facebook
@ikeco.jp

X
@iskcorp

YouTubeチャンネル
イケダコーポレーション

ご登録
お願いします

0120-544-453

仙台・東京・名古屋・大阪・福岡

<https://iskcorp.com/>